

わたしたちの町

人 口	(男)	4,580 人
	(女)	4,938 人
合 計	9,518 人
4 月 中 の 転 入	76 人
	転 出 64 人
世 帯	数	2,319 世帯数

(58年4月末日住民登録調べ)

广報

あいかわ

昭和58年5月23日 第300号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 018678-2111

広報は、中学校生徒会に委託して各家庭に配布しています。（発行予定日毎月20日）広報への意見や話題などをあお知らせください。

'83/5月
300号

手拍子に心をあわせて 大野台野外音楽祭



五月五日の子供の日、大野台野外音楽祭が開かれました。町内の青年たちが中心になつて開いたもので、県北各市町村から幅広く参加。中学生の吹奏楽、青年たちのグループ演奏、踊り、ハーモニカ、独唱など、それぞれの特技に、情熱を発散させました。

第五回とあつて会場は遠方からの参観者もあり、「お花見」をかねた行楽客がいっぱい。「合川町を文化の町に／＼大野台をいこいの里に！」との呼びかけに、大きな拍手がわいていました。

町の民踊舞踊同好会、リバークロスサウンドの皆さんも熟演。阿部澄子さん（桃栄）は大自然を背景に独唱。野外ステージを中心に、ハイランド一帯が一日中、にぎわっていました。

歌と演奏と踊りの輪

新緑の中にレンゲツツジの咲き競う季節になりました。
大野台ハイランドは、連日、多くのテニス客の方で、ま

八
四

三友電氣株操業へ 一社目の誘致企業

臨時町議会は五月十四日開
補正予算、収入役の選任など
提出四議案を可決しました。
▽町税条例の改正
（可決された議案から）
　法人税の改正、バイクの土
　バ一交付の手続きの簡素化な
　町税条例の一部を改正しまし
▽昭和五十八年度予算補正

和田収入役

入社式では二十名の新社員を前に小椋力男社長が「力を合わせて、新工場を軌道にのせてほしい」と激励のあいさつを行いました。竣工式は六月三日、同工場内で行い、あわせて農村環境改善センターで操業の祝賀会が行われます。

工業団地の誘致企業では、太野台電機(株)で現在百八十二名が就業中。三友電気(株)は二十三名でスタートします。さらに年内に、高橋機工(株)、粉末

工場面積は四百九十五平方メートル、投下資本約二億円。

工場内には、近代的な諸設備のすえ付け作業が、ほとんど完了した。コンピューター付きの工作機械などの試運転が進んでいま

三井電気機は、アーティスチックな
船舶、医療機具などの部品を製
造しています。秋田工場では主
に大野台電機（株）で製造するソ
レノイドのプラスチック部分の
製造を行うほか、雪積地用の送
電線部品などを製造する計画で
す。

大野台の工業団地に建つ
氣（株）秋田工場が完成し
行されました。五十六年、
大野台電機（株）に統い、
ります。

A black and white portrait of a man with dark hair and glasses, looking slightly to the right. The photo is set within a circular frame.

和田収入役

町民体育館の付帯施設工事費五百十二万三千円を追加しました。
▽収入役の選任
五月十九日で任期となつた畠入役に和田三九郎氏（三十九歳）
（上杉）を再任することに同意しました。

二十名の新社員を前に小椋
力男社長があいさつ。



一九四九年

体長二・五センチは最も小さい魚とさうぢ「など」といいます。しかし、メダカが本格的に動き出すのは水温が十三度ぐらいからと、いうことで春らしい陽気になつてから。子どもの水の事故もこの季節から多くなります。

A simple line drawing of a young boy wearing a baseball cap and a jacket with a hood. He is standing on a grassy bank next to a stream with small waves. A single cloud is in the sky above him.

五月二日 NHKかか
材に来るとの連絡があるので、他の行事もあって時にお会いすることにして、来られたのはNHK番組制作局農林水産業部安田記と、アナウンサーの草柳三氏だった。このときはじめて「明るい農村」へ出るようになると、その交渉をうけた。そのためには、合川町の印象とか私の考え方とかを見聞するのが目的であった。 晩はハイラン
ドに一泊、四方山話をして取材しやすいうとに努めした。録画は十一日土に渋谷区神南のNHKにき、再び打合せの上、士時がかりに本番となつた。私は少し緊張したためかライトで照らされたためか喉がからからに乾いて困

町長日記から

町と私の考え方を充分言い表わすには時間が少なかつた。テレビの二十五分とは長い時間であるわけだが、話題はいくつも出しが出来なかつた。それはあらかじめ「対談」なので、対話とか理論と言ふのではなく、さり話のやりとりで、あくやる人々が判断するの言う草柳アナウンサーが通りとなつた。町民さんには私の言つたことよく理解されたかどうかも少し心配である。(義)

一広報歳時記

